

徳島県立文学書道館 開館20周年記念書道特別展

驥^き山^{ざん}館^{かん}所蔵

小坂奇石の名品

2022年 6 / 17 (金) ~
8 / 3 (水)

会場 1階 特別展示室・ギャラリー
開館時間 9:30~17:00
休館日 月曜日 (ただし7月18日は開館し、翌日休館)

観覧料
一般 520円(410円) 高校・大学生 360円(290円)
小・中学生 260円(200円)
()内は20人以上の団体割引料金。
小・中・高校生は土・日・祝日・夏休み期間中は無料。
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

主催 徳島県立文学書道館
後援 徳島県教育委員会 徳島新聞社 四国放送 NHK徳島放送局



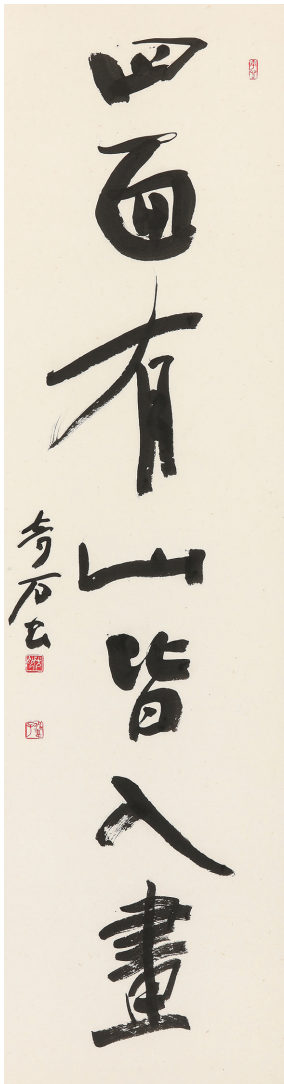
小坂奇石「雲出岫」85歳

言の葉ミュージアム
徳島県立文学書道館

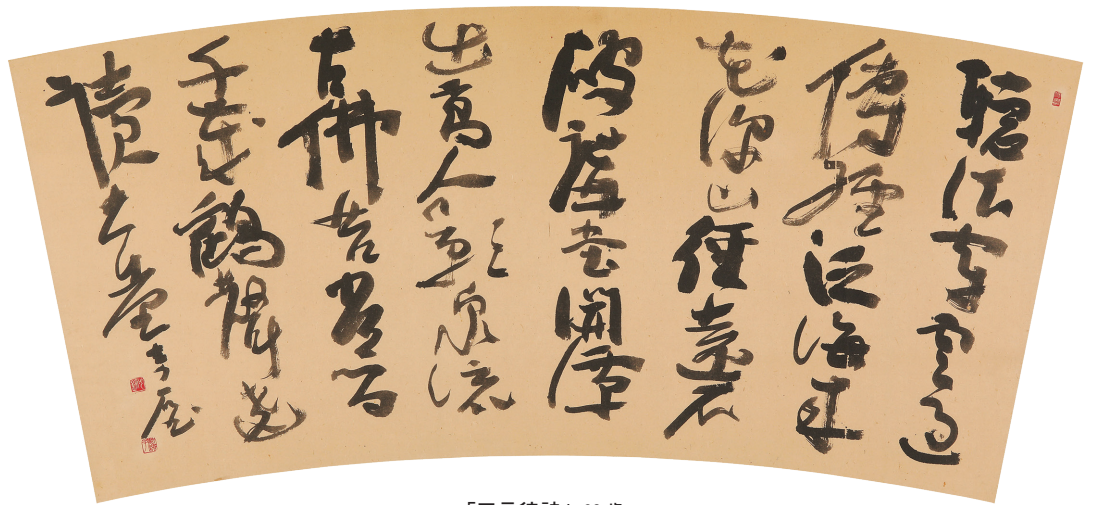
〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1 TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540
メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp ホームページ <http://www.bungakushodo.jp>



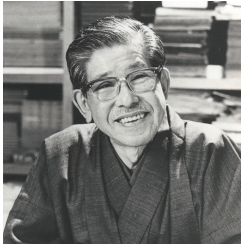
長野市にある驥山館は、小坂奇石（1901-91年）が父親のように慕い、書家として初めて日本芸術院賞を受賞した川村驥山（1882-1969年）の作品を紹介する美術館で、親交のあった奇石の作品も多数収蔵されています。今回の特別展では、その中から日展や現代書道二十人展、日本書芸院展などの出品作を中心に38点を展示します。このうち25点は徳島初公開です。徳島ではめったに見られない名品を、ぜひご覧ください。



「四面有山皆入畫」80歳



「五言律詩」60歳



こさか きせき
小坂 奇石
(1901-91年)

徳島県海部郡美波町出身。少年期に阿部捉龍に、その後、黒木拝石に師事。書道研究「璞社」を設立。

長年勤めた大阪ガスを定年退職後、奈良教育大学などで教鞭を執った。日展文部大臣賞のほか、書家として初めて日本芸術院恩賜賞・日本芸術院賞を受賞。「書の本質は線にある」とし、“線の行者”として知られた。



〈驥山館〉

1962年開館。川村驥山が戦時中に疎開し、晩年を過ごした長野市篠ノ井に建てられた私設美術館。川村驥山、小坂奇石、赤羽雲庭ら現代書家の作品や、驥山が使った筆や墨などを展示している。毎年2月には全国書初展が開催されている。

関連イベント

- トーク「驥山館の奇石作品」
7月10日(日) 10:30~12:00
講師／川村龍洲（驥山館館長）
申込必要（先着100人）
- 展示解説
7月3日(日)、7月27日(水) 11:00~11:30
講師／立石充（当館学芸員）
申込不要、観覧券必要
- トークの申込方法
はがき、FAX、メールのいずれかに「小坂奇石展 トーク」と明記の上、郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号を記入し、当館までお申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。



●交通アクセス（JR 徳島駅から）

- 徒歩 約15分**
JR 徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。
- バス**
〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。
〔徳島バス〕15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。
- タクシー・自動車 約5分**
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。当館北側に駐車場があります(43台・大型バス2台)。